

あと2年！ 江坂彰

本当に定年がそんなに待ち望んだものなら、あなたの会社人生は何だったのか、ということになる。ただ給料のためだけに面白くもなく働いてきたのか。
腕を磨き、自分の仕事をやったという自負はないのか。

要するに、われわれは本音を素直に主張できる個の時代に生きている。建前にふりまわされずに済むのだ。それどころか、建前で生きると辛い。だから、「嫌なもの嫌」「きれいごととはパス」と思う自分に自信を持ったほうがいい。

と、こんなことをわざわざ言うのは、男は案外、それが分かっていないからだ。女性はいたってリアリスト。嫁さんはすでに本音で生きている。建前が「アホらしい」という時代になった時、亭主の方も本音の底力を受け入れないと、わびしく辛いだけの人生二毛作目になってしまうと忠告しておきたい。

昔は親が子供と同居することを望んだ。いまは親のほうが子供と一緒に暮らすことを望まない。親子が別々に住んでいる場合、かつてはスープの冷めない距離が理想と言われたが、いつの間にか一週間に一度会えばいいくらい離れるのが理想になった。それくらいで充分だと思う。

自分だけの時間を確保した一日で、ゴルフ仲間をつくるのもいい。自分の一杯飲み屋をつくるのもいい。それから、自分の趣味仲間をつくるのもいい。あるいは書斎で本を読むのもいい。定年後、そのことがものすごく生きてくる。

孤独に強くなることは大事だが、孤独と孤立はちがう。人間、孤立しては生きていけない。家庭のないホームレスはかなしい。

今と昔が一番違うのは、「この人はちょっと贅沢なところがあるな」という人は尊敬され、質素だけの人はただのケチと間違えられるところだ。

「清く、正しく、美しく」という観念に欠けているのは楽しさだ。いま、日本は楽しさ、面白さを求める時代に入っている。

・・・

いま、天神さんに受験のお札をかけ、占いがブームだ。それが迷信というより遊びだということをみんなが知っている。天神さんに受験の札をかければ志望大学へ合格するとは考えていない。そういうふうには、いまの時代はもうちょっとハートで楽しまないと。効率一辺倒じゃ行き詰まる。ムダや遊び、ゆとりが必要である。

要するに、これまでは夢を実現するために頑張ってきたと考えたほうがいい。何のために健康を守ってきたか。何のために金を貯めてきたか。やはり夢を実現したいために頑張ってきた。少し前の世代は、その夢を実現する一歩手前で終わるのが精一杯だった。いまはそれが実現できる時代だ

イチローがすごいことを言っていた。「五人も十人も親友がいるような人は信用できない」。まさにそうだと思う。私も親友と呼べる友人は一人か二人、いるかいらないかだ。

・・・

「仕事をくれる友」「一緒に遊んでくれる友」「一緒に愉快的時間を過ごしてくれる友」がいれば、定年後は困らない。極端なことをいえば、親友はいなくてもかまわないと私は思う。

仕事にしても、「イヤだな」と思ったら、「ちょっと私には荷が重いです」と逃げるとか、「この適任は彼です」と人に回す。それで嫌われたって、五十五歳以降は大したことはない。かえって**閑職に追いやってもらったほう**が、定年後の準備をする時間ができるからありがたい。

「敬して遠ざける」

「好きか嫌いか」「自分がやりたいことか、やりたくないことか」の価値尺度を自分に持つ。

人から「ああ、大したもんだな」と言われる何かを持つ。

衰えを意識するからこそ、いまやらなければならないことを考えることができる。

子供のために親が一生懸命になるのは貧しい時代であり、親の努力はただの純粹さじゃなく、将来、**子供に返してもらおうという気持ちがあった**。それが「親孝行」という言葉に象徴される。

・・・

子供と親で会話が通じないのは当たり前である。むしろ親と子供の対話はむずかしい。**何でも話し合えば分かる**というのはウソだと考えたところから、スタートした方がよい。

サロンの知的刺激を大事にしよう。